

# 「緊急一時宿泊所」設置で 貧困を可視化し、行政を動かす

倉敷医療生協労働組合書記長 やました 山下 じゅんこ 順子

09年2月緊急一時宿泊所付の<sup>みずしま</sup>水島労働・生活相談支援センター「ほっとスペース25」を開設して1年以上が経ちました。今も、依然として深刻な相談が相次いでいます。職と住まいを失い、所持金も持たず、明日の生活も保障されず、命さえ脅かされる状態で相談に来る方が後を絶ちません。

今年5月末までの相談は198件、217人にのぼり、緊急一時宿泊所を78人が利用するなど、地域の労働者の深刻な状況が浮き彫りになっています。

そして、新たな政権のもとでも、働く人たちがモノのように使い捨てにされる状況は変わらず、不況が長期化するもとの、事態はいつそう深刻になっていると感じます。

## 倉敷市が「緊急一時宿泊所」設置決定し 予算化

「ほっとスペース」では、こうした実態をふまえて、対市交渉を重ね、迅速な生活保護の適用や市営住宅の緊急入居募集、緊急援護資金貸付制度の延長などの回答を引き出してきました。

何よりも最大の成果は、<sup>くらしき</sup>倉敷市が「緊急一時宿泊所」の設置を決定し予算化したことです。昨年12月15日より「NPO 法人かけはし」が市の委託を受け、市内の民間コーポ4戸を借り上げ、「ほっとスペース」と連携しながら活動しています。今年度も「緊急一時宿泊所」へ約1,000万円が予算計上されました。

中核市ではめずらしい行政による一時宿泊所の

設置を実現させた背景には、「ほっとスペース」での活動を通して、貧困の実態を明らかにし、それをもとに交渉していくことで行政も重要性や必要性を認めたことがあります。労働者や住民のたんなる救済にとどめず、貧困を可視化し、行政を動かしてきたことが最大の成果だと思います。

緊急一時宿泊所利用者の紹介経路も、福祉事務所からの紹介が4割を占めています（図表1）。当初は「本来は行政のすべきこと」と福祉事務所とケンカもしましたが、今ではお互い連携をとり協力しながらすすめられるようになり、生活保護の申請も非常にスムーズになっています。窓口の自治体職員も生活保護の急増や対応で労働強化になっています。人員体制の強化も含め、引き続き行政へ働きかけを強めていきたいと思っています。

## 相談者の3分の1が住まいのない状態

緊急一時宿泊所の開設以降78の方が利用されました。実に相談者の3分の1を超える方が住まいのない状態でした。派遣切りや期間工の雇い止めで寮を追い出された、家賃が払えず住居を失った。その後は、ネットカフェや知人宅、車上生活や路上生活など転々と…。「ほっとスペース」へたどり着いた経緯は様々ですが、共通しているのは、背景に「貧困」があるということでした。

派遣切りや雇い止めで仕事と同時に住まいも失う人に、若い層が多いのが特徴です。利用者の内



「来年もみんなと花見ができればいいな」との声も出た「ほっとスペース25」のお花見

訳をみると40代が最も多く、20代、30代の若い層も4分の1を占めています(図表2)。

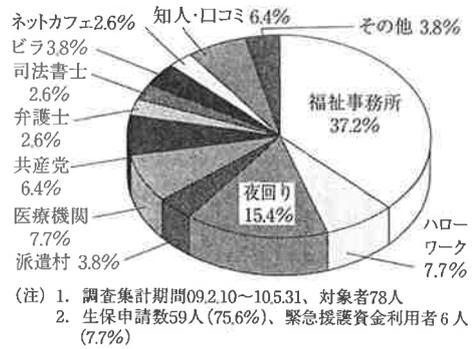
### あきらめかけていた人生に「希望」が!

今まで多くの人たちが、「ほっとスペース」を拠点に生活を再建し、新たな生活の場へ一歩を踏み出しました。「『ほっとスペース』に来るまでは、今日はどこで寝ようか、どうやって食べていこうかと、毎日不安と恐怖の中で過ごしてきた。ここにきて、やっとこれからのことを考えられるようになった」と言います。そして、「多くの人たちのやさしさに救われた。あきらめかけていた自分の人生に希望が持てた」と多くの方がボランティアに参加しています。

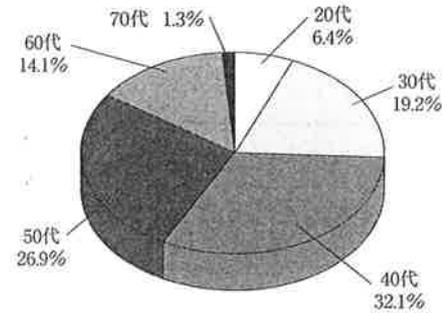
「自己責任論」で追い詰められ、夢や希望を失っていた青年たちが社会の矛盾に気づき、仲間とつながり、そのことが「生きる」力になっています。先月の「ほっとスペース」の「お花見」には、懐かしい元気な笑顔が集いました。生まれて初めての花見だという方、そして「公園で寝ていた頃はこんな日が来るなんて思わなかった…。来年もここでみんなと花見ができればいいな」と思わず涙ぐむ姿に、あらためて人と人とのつながりの大切さ、憲法25条の重みを実感しました。

### 就職に結びついたのはわずか14%

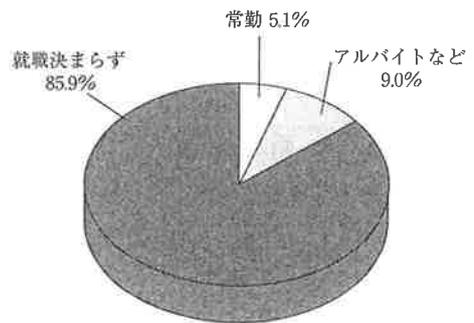
図表1 「緊急一時宿泊所」利用者の紹介経路



図表2 「緊急一時宿泊所」利用者の年齢



図表3 就職に結びついた人の割合



こうして生活再建への道は開かれたものの、経済不況が長期化する中で、雇用情勢は未だ深刻です。実際に一時宿泊所利用者78人のうち、就職に結びついたのはわずか11人(14.1%)。そのうち正社員は4人(5.1%)という現状です(図表3)。

ハローワークへ足を運び、求人紙に目を通す毎日。やっと面接にたどりつけても不採用…精神的にも追い詰められていきます。やっと希望を見いだしたが、またどん底へ突き落とされるという現実。失業者の生活支援や雇用創出、正社員化は緊急の課題です。

そして何よりも「人が人として大切にされる社会」「人間が人間らしく生きられる社会」の実現にむけて、引き続き地域で運動を広げていきたいと思えます。